

国語科学習指導案

科 目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
国語総合	1年3組（普通科）41名 （男子19名，女子22名）	1年3組	国語総合 改訂版 （教育出版）	柳田 美穂

1 単元（題材）名

「東下り」『伊勢物語』

2 単元（題材）の目標

- ア 作品の背景世界を踏まえて作品を読み味わい，歌物語に対する親しみを深める態度を育成する。
（関心・意欲・態度）
- イ 描かれた情景を本文に即してイメージし，和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。（読む能力）
- ウ 文法の基礎を理解する。また，和歌の修辞技法を理解している。（知識・理解）

3 単元（題材）の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① <u>伊勢物語の背景世界について知ろうとしている。</u> ② <u>状況を踏まえた短歌を作ろうとしている。</u>	①情景，登場人物の心情を表現に即して読み取ることができる。 ②和歌に込められた思いを読み取ることができる。	①重要古文単語や，文法事項について理解している。 ② <u>和歌の修辞技法について理解している。</u>

4 単元（題材）の指導計画（全5時間）

	主な学習内容	評価規準
第1時	「 <u>芥川</u> 」の内容理解（現代語訳配布）本文通読 「伊勢物語」の特色理解，現代語訳（始め～4行目），内容読解	関・意・態① 知識・理解①
第2時	現代語訳（5行目～和歌の前まで），内容読解	読む能力①
第3時	現代語訳（和歌～最後），和歌の修辞技法，和歌の解釈，内容読解	読む能力②
第4時	<u>折り句の技法を用いた短歌の作成①</u>	関・意・態② 知識・理解②
第5時 （本時）	<u>折り句の技法を用いた短歌の作成②，発表，学習のまとめ</u>	関・意・態② 知識・理解②

5 教材（単元・題材）観（単元概要）

比較的平易で短い文章ではあるが，歌物語の特色について学ぶことができ，情景描写や心情表現に優れた作品である。また，作品の中で詠まれている和歌からは，枕詞や序詞，掛詞，折り句などの修辞技法を学ぶことができる。さらに「芥川」と関連させて作品の背景について学ぶことで，和歌に込められた思いをより興味深く読み取ることができる教材である。

6 生徒観（生徒の実際）

学級の雰囲気は明るく、学習態度は良好である。授業を展開する中で古典のものの見方や考え方に興味を示し、学習に対する積極的な面は評価できる。しかし、読解のための古文単語や文法への苦手意識、作品の背景的知識の不足から、古典の文章そのものに抵抗感を抱く生徒も少なくない。また、予習の状況、小テストや定期考査の結果をみても、古典学習の基礎的基本的な知識・技能を育むための学習習慣が定着していないことが分かる。古文のおもしろさを味わわせながら興味や関心を喚起し、学習意欲を高めるとともに、基礎基本の定着を図るような授業が必要である。

7 指導観

「東下り」は、読解のために古文常識や作品の背景的な知識が必要である。興味や関心を喚起するためにも、「芥川」の補足資料を活用し、本文の情景や登場人物の心情をより具体的にイメージさせていきたい。また、授業で辞書を用いて単語力の育成を図り、文脈から古文単語の意味を考えさせる活動などの基礎学力の向上につながる指導が重要である。文法事項は「過去の助動詞」や「完了の助動詞」に絞った学習をすることで定着へとつながり、生徒の文法への抵抗感を軽減できると考える。歌物語の特色を理解させるとともに、生徒自身に折り句の技法を用いた短歌の作成をさせることで、古文のおもしろさを味わわせ、親しむ姿勢を養いたい。

8 本時の実際

（1）本時の目標

- ア 歌物語に対する親しみを深める態度を育成する。（関心・意欲・態度）
- イ 和歌の修辞法を理解している。（知識・理解）

（2）本時の評価規準

関心・意欲・態度	知識・理解
状況を踏まえた短歌を作ろうとしている。	和歌の修辞法について理解している。

（3）本時（第5時）の展開

過程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価方法
導 入	0	・「東下り」の内容を振り返り、構成や和歌の内容、和歌に用いられている技法を復習する。	・歌物語の特色を確認し、和歌が登場人物の心情を踏まえ、折り句の技法を用いていることを振り返らせる。	行動の観察 (関・意・態)
		・本時の学習内容・目標を確認する。	・本時の学習内容と目標を理解させる。	
【学習目標】伝統的な言語文化としての折り句について理解を深める。				

展 開	5	・作成した短歌等の最終推敲を行う。(ワークシート)	・短歌の題材を「高校生活の一コマから」とし、前時まで に予め短歌を完成させておく。	記述の確認 (知識・理解)
	10	・班で合評会をする。(評価表) ○班員の作品の感想を書く。 ○他の班員からの自分の作品への感想を聞く。 ○代表者を話し合いにより 一名選出する。	・合評会の目的、注意点を確認させる。 ・班内で合評会を進めるため、 司会者をたてる。	
	30	・代表者は作品を発表し、聞く人は聞いた感想を評価表に記入する。	・聞き手側の注意点を指示する。	
終 末	40	・本時の学習のまとめとして、 学習の感想を書く。(評価表)	・伊勢物語の登場人物と同じように、 折り句をつくるという伝統的言語文化の 学習をした感想を書かせる。 ・2, 3人に発表させる。 ・平安時代になされていた活動を現代に 生きる生徒が経験したことに触れると ともに、今後の古典学習に活かしてい くよう意識づけをする。	行動の観察 (関・意・態)
	50			